フォーラム「軽井沢の未来と庁舎計画」

～50 年後にも誇れる、知性と環境倫理に基づいた真の「環境都市・軽井沢」へ～

日時：８月 31 日（月）午後２時～4 時
場所：軽井沢町中央公民館
内容：軽井沢町の 30 年後を見据えた公共施設整備の在り方

開催主旨

日本での避暑地文化の礎を築き、自然との共生、高い文化的価値を紡いできた軽井沢。現在、この町で進められている「新庁舎改築および周辺整備事業」に対して、**「私たちの軽井沢と庁舎を考える会」**は、建設計画への反対ではなく、**「軽井沢のブランドと未来を守り、さらに進化させるためのポジティブな計画変更」**を求めて活動しています。
私たちは、改築による役所機能の刷新には大いに賛成しています。しかし、現在の 120 億円を超える大規模な複合化計画、および環境先進都市でありながら創エネ（ZEB 化）を将来に先送りする姿勢には、強い危機感を抱いています。

今、私たちが声を上げるのは、この町を愛する定住住民、別荘滞在者、そして次の世代への深い責任感からです。私たちは本フォーラムを通して、行政に対して以下３つのプランを提案したいと思います。

1. **「住民のための庁舎」の早期単独整備**
2. **「ZEB（ゼロ・エネルギー・ビル)」を先送りしない建築**
3. **「定住+滞在」住民の知性を結集した合意形成**

公共建築とは、その自治体の『知性と倫理のシンボル』です。私たちが求めているのは、予算の数値をめぐる不毛な争いではありません。「30 年後、50 年後にこの町を担う人々に対して、『あの時、軽井沢は昭和的なハコモノ行政に陥らず､地球環境と財政の未来に誠実な選択をした』と胸を張って言える庁舎を残したい。」これこそが、軽井沢が世界に発信すべき真のブランド価値だと信じています。行政と住民が対立するのではなく、共に未来の自治体の最高水準のモデルを創り上げるために、いま一度、対話のテーブルを整えることを提案します。

登壇者


小林博人


佐藤信孝


船曳鴻紅

パネリスト：**小林博人**　建築家、慶応大学教授
小林・槇デザインワークショップ代表、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科兼環境情報学部教授
パネリスト：**佐藤信孝**　設備設計家、元日本設計副社長
建築設備綜合協会会長、建築設備技術者協会理事、都市環境エネルギー協会理事を歴任
モデレーター：**船曳鴻紅**　デザインコンサルタント、元東京デザインセンター社長
日本デザインコンサルタント協会代表、グッドデザイン賞審査委員会副委員長を歴任